＜オンライン教学講座「撰時抄」②　参考資料＞

◎勝利の経典「御書」に学ぶ

日蓮大聖人は本抄で、経文に照らし、「時」を根本とする考え方のうえから、白法隠没の次は、法華経の肝心たる南無妙法蓮華経の大白法が閻浮提に広まる「時」であると明確に示されています。

これは、白法隠没という末法の時を、南無妙法蓮華経の大白法が広宣流布する時に転換しゆく主体者として立ち上がられた大宣言であると拝されます。

すなわち、末法の衆生を救うためには、機根の勝劣に関係なく、誰人の生命にもある仏性を直接呼び覚ます下種の大法でなければならない。一切の諸仏を成仏せしめた根源の仏種である南無妙法蓮華経の法でしか、末法の衆生の生命を変えることができないからです。

（「大白蓮華」2010 年 4 月号 48 ページ）

◎法華経の智慧〔上〕　方便品

もし本当に第三次世界大戦が起これば、原水爆等によって、人類は滅亡してしまう。かつての大戦以上の悲惨と苦悩を、人類は、また味わわなければならないのか。それでは仏法者として、あまりに無慈悲ではないか。

われわれは、第二次世界大戦をもって、「前代未聞の大闘諍」と決定しよう。どんなことがあっても、第三次世界大戦は起こさせない。そのことを御本尊に強く願い、死身弘法を誓おうではないか。広宣流布という世界の恒久平和、人類の幸福を、必ず達成しようではないか。

（『普及版　法華経の智慧〔上〕』182 ページ）

◎勝利の経典「御書」に学ぶ

悪魔・魔民などの悪鬼が、名聞名利・増上慢の僧の身に入り、正法ならびに正法の行者を破る。ある意味で、これ以上の無明はありません。法性の生命を開く可能性を悉く否定しようとする働きです。

「元品の無明」との戦いとは、いうなれば人間の根源悪との戦いです。その闘争にあって一歩も退かない。それが法華経の行者です。

そして三障四魔・三類の強敵に勝利する姿を示すことで、人間の持つ「元品の法性」の可能性を満天下に証明することになります。それが万人に最大の動執生疑を与えるのです。

「人間不信の壁」を破り、人間の尊極さに目覚めさせる。「前代未聞の大闘諍」とは、人々の胸中にある「差別の壁」「無力感の壁」を破る動執生疑であると拝することもできましょう。

魔性に対して人間性が断じて勝利すること、これが、広宣流布の戦いです。

（「大白蓮華」2010 年 4 月号 52 ページ）